

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	大阪府	市町村名	大阪市	機関名	大阪市教育委員会
派遣日	令和2年11月19日(木曜日) 15:00~17:00				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 (派遣) / 遠隔				
派遣場所	大阪市教育センター(〒552-0007 大阪市港区弁天1-1-6)				
アドバイザー氏名	浜田 麻里(京都教育大学国文学科 教授)				
相談者	中島 典子 (大阪市教育委員会事務局指導部 教育活動支援担当 人権・国際理解教育グループ 指導主事)				
相談内容	○プレクラス、センター校、日本語指導協力者派遣(小学校1~3年生)、JSL指導員、在籍校(クラス)のそれぞれの役割と、どのように効果的に互いを繋げていくか。 ○日本語の習得に時間のかかる児童生徒や特別に支援を要する児童生徒への効果的な指導法。 ○母語や日本語が話せても書くこと、読むことが非常に難しい児童生徒への指導法。				
派遣者からの指導助言内容	○多言語環境における児童生徒の言語習得について ・第2言語習得のモデル ・外国人児童生徒等の日本語習得の特徴 ・認知発達と第2言語習得 ・読み書きの発達 ・発達の遅れをもたらす原因 ・特性への対応例 ○外国人児童生徒等の学校への受け入れ ・体制、対応、保護者との信頼関係、学級・学校への適応の支援、指導環境 等 ○日本語指導担当者との連携 ・連携の必要性について ・日本語指導の目標設定 ・居場所をつくる力、学びを支える力、キャリアを拓く力 ・連携の実例 ○内容と日本語の統合学習の考え方と在籍学級での授業参加 ・内容と日本語の統合学習(JSLカリキュラムについて) ・学習の流れ ・日本語で在籍学級の学習に参加するための支援				
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	浜田先生が研修会で紹介して下さった研究や実践を伺って、大阪市が取り組んできた実践、または今後取り組もうとしている内容の方向性が同じであることがわかり、自信をもって取り組みを進めていくことができると確信した。 日本語指導が必要な子どもたちへの支援をより充実させるためには、学校・家庭・地域の連携や情報共有を丁寧に行っていく必要があると感じた。そのために、日本語指導が必要な子どもたちに携わっている関係諸機関とともに日本語指導教育の研修や研究を計画的に進めていきたい。				